

答 辞

あたたかな日が続いたかと思えば、冬に逆もどり。そんな三寒四温の今日この頃ですが、そういえばベランダ越しに見える景色の中に「もえぎ色」が次第に増えてきたのを眺め、春の訪れはいつもこうだったかなと、ふと気づく時があります。

きつと二年前の今頃もそうだったと思います。悲しみや不安を抱え、それぞれができることを模索している中、いつもどおりやってきた春のあたたかさと、当然のように伸びる草木に、私たちはどれだけ勇気づけられたことでしょうか。そんな時期に、自分は、自然と向き合う職業を選び、歩み始めたのだな、と思うと、今になって感慨深いものを感じます。

この東黒牧での生活も、最初は慣れない環境に戸惑うこともありました。引越して来た初日にサルの親子に出会った時は、なんて凄いとこに來てしまったのだろうとつくづく思いました。渡邊先生にはクマも出る、とよく脅かされましたが、なんとか襲われることなく本日卒業できそうです。春は春らしく、冬は冬らしい。そんなあたりまえのようで、失われつつある尊い環境から離れることが今は寂しくてたまりません。

一年目の実習では、道具の使い方、ましてや身体の使用方すらわからず、よく変な所を怪我しました。特に乱

積みや雪吊りでは壁にぶつかり、悔しい思いもしました。それでも、職藝祭の初めての庭づくりは印象的で、完成が近づくにつれて湧き上がったあの感動と充実感は、今も忘れることはありません。

そんなわれら環境職藝科十六期生はいつのまにか3人になってしまいました。高木さん、横田さん、そうなたのはいつからか覚えていますか。少なくとも二年目は3人でのスタートとなりましたね。

実際のお客様のお庭を手入れさせていただくようになると、成長せざるをえない環境が自然と生まれ、責任も負うようになりました。しかしそこで初めて、庭師としてのやりがいというものを感じた気がします。ある時、いつも優しい小林先生から出た、「プライドを持って仕事しなきゃ」というお言葉を私は忘れません。

フランスから日本の伝統の庭づくりを学びにやって来たポールとの七月の出会いも忘れられません。彼ほど勉強熱心で、行動力のある人間と付き合ったのは初めてだったかもしれません。只只感心し、刺激を受けました。負けずに頑張らなければなりません。ただ、現場に英会話入門の本と、電子辞書を持っていくことは、もうないでしょう。

この一年はどんなときも3人で乗り越えてきました。座学のテストやレポート、苦戦した技能検定、要素試験。そして何より最後の卒業製作の庭づくりです。

いつもはバラバラなメンバーですが、いざという時は一つになれる。そんな姿を横田さんはSMAPみたいと表現しました。SMAPは5人組ですが、我々もなかなかの3人組だったのではないでしょうか。それも残念ながら今日で解散です。お二人には心から感謝しています。本当にありがとうございました。先生方、もうこのよう

なクラスは無いと思います。どうかご安心ください。

こんなにも充実し、自分らしく生活できた日々はありません。この御恩は、これからの良い仕事でお返しし、社会に貢献していくことで報います。きっと良い庭をつくります。

最後になりますが、この二年間、温かく見守って下さいましたご来賓の皆様、本学院の稲葉理事長をはじめ、愛あるご指導をいただきました諸先生方、快適な学校生活をサポートして下さいました事務職員の皆様、アパートの中村さん。いつも楽しい話題と刺激をくれた建築職藝科の同期生。改めて御礼申し上げます。そしていつも支えてくれた家族に感謝します。

職藝学院がこれからも一層発展されることを願いながら、答辞とさせていただきます。

平成二十五年三月二十日

職藝学院 環境職藝科

卒業生代表

根 岸 新